



電子書籍

# マスターデータ管理を通じてデータのサイロ化を解消

企業にアジリティが求められる時代を制するのはデータの一元化

## ■ 長い歴史の中で、貯蔵庫として活躍してきた巨大なサイロ。それは、「豊穰」と「あらゆる事態への備え」の象徴でもありました。

しかし、現代のビジネスにおける「サイロ」は、切断されたシステムなど、様々なデータの課題の象徴として用いられており、イノベーションやビジネスの成長を阻害し、サービスレベルを低下させるなど、一般的に不便をもたらす技術を示しています。データサイロは、システムの運用管理を担当するITスタッフや、システムユーザー、さらには企業の製品やサービスを求める顧客にまで悪影響を及ぼすのです。

### ITの歴史の中で、データサイロが生まれた原因とは？

また、それを克服する方法とは？

その解決への道を開くのが、マスターデータ管理(MDM)です。



## ■ データサイロの要因

まず、MDMがどのようにこの問題を解決するのかに触れる前に、データサイロが生まれた原因について見ていきましょう。その原因は、ITが急速に進化し、多くの大企業がレガシーアプリからクラウドへと移行したことや、急速な吸収合併により、社内に複数のアプリケーション・インスタンスが生まれたことにも関係しています。

また、意思決定の分権化が急速に進んだことで、部署や事業体、地域ごとにデータを複製し、独自に管理するようになったことも原因となっています。

**その結果、ハイブリッドIT環境の企業におけるデータの隔離とサイロ化が進みました。**分散されたデータを抱えたまま、顧客中心のサービスを提供し、変化に素早く対応できるアジャイルな企業を目指すべく、各々が独自の道を歩んでいるのが現状なのです。

### データサイロ を構成する 要因

レガシーアプリ  
クラウド  
XaaS  
ERP  
CRM  
SCM  
マーケティングオートメーション  
マーテックスタック  
BI/分析

運用データ  
顧客データ  
商品データ  
製造データ  
レポート用データ  
サプライヤーデータ  
マスターデータ  
トランザクションデータ  
IoT

ソーシャルデータ  
従業員データ  
ロケーションデータ  
法規制関連データ  
営業・販売データ  
構造化データ  
非構造化データ  
ビッグデータ  
人工知能 (AI)



## ■ データの急増

分散されたアプリケーションやデータ、クラウド移行、継続的なディスラプションとデジタルトランスフォーメーションなど、企業が様々な課題に取り組んでいる間にも、データはかつてないペースで急増を続けています。

特にマスターデータにおいては、データの急増に対応したり、先駆けて対応することは非常に困難です。

### マスターデータ

マスターデータには、商品、顧客、ロケーション、アセット、サプライヤー、従業員などに関する一貫性のある標準データが含まれます。

1人あたりの1日の平均的なデータのやりとりの量は、今後10年間で

**20倍**

に増加することが予想されています。<sup>1</sup>

## ■ なぜ、データサイロ + マスターデータ = ビジネスの失敗なのか

どのようなデータでもサイロ化は禁物。ことマスターデータの運用にかけては、大きな弊害を引き起こします。その理由は明快です。現代では、**最高品質のデータ**がビジネスを制するからです。

サイロ化されたデータは、「最高品質」のデータとはなりません。つまり、**サイロ化されたデータでは勝負に勝つことはできない**のです。

競争は激化し、予算は縮小の一途を辿る現代において、企業には少しの誤りも許されません。そうした環境の中で、サイロ化されたデータで経営を続けている余裕はないのです。

サイロ化されたデータをそのままにしておけば、ビジネス機会の損失と収益低下を招くとともに、次の弊害をもたらします。

- アジリティ不足
- 情報不足による意思決定のミス
- 自信や信頼の低下
- 競争力の低下
- ブランド力の低下
- 顧客ロイヤルティの低下

### データサイロ + マスターデータ

低品質なデータ  
不正確なデータ  
重複データ  
不完全なデータ  
不良データ

**83%**

顧客データが最新の状態に維持されていない企業の割合<sup>2</sup>

**64%**

不完全・不正確な顧客データに依拠する企業の割合<sup>2</sup>

不良データに起因する年間平均損失額：

**\$1500**万  
米ドル<sup>3</sup>

## ■ マスターデータの活用でデータサイロの課題を克服

ビジネスの成功を妨げるデータサイロ。マスターデータ管理 (MDM) は、変化の激しい複雑な市場で、分散されたIT環境を運用する企業のデータサイロを解消します。

MDMは、データを一元化して、全社共通の「ゴールデンレコード (単一の情報源)」を作成します。一元化された基幹データを活用し、リアルタイムで分析を実施できるようになるのです。

MDMは、柔軟で拡張性に優れた統合ソリューションです。商品、顧客、店舗/ロケーション、従業員、サプライヤー、デジタルアセット などに関するデータの識別・関連付け、シンジケーションを通して、包括的な視点からビジネスの取り組みを促進できます。

MDMは以下の課題を解決します。



### アプリ/データ のサイロ化

複数のバージョンや重複データを解消



### データ エラー

手動によるデータ入力、保守業務やプロセス/制御の不備などによるエラーを解消



### 古いデータ

信頼できる最新のデータがどこか分からないという悩みを解消

## ■ MDMでデータの透明性を実現し、ビジネスの価値を高める

### ビジネスをより良くするための最適化

1 業務効率の向上

2 コンプライアンスを武器に

3 リスクの管理と低減

### 成長の原動力となる変革を推進

4 サプライチェーンの強化

5 優れた顧客体験の提供

6 デジタルトランスフォーメーションを加速

7 ビジネスの俊敏性を向上



## ■ MDMでデータを有益な資産に

MDMを活用すれば複数のシステムに格納されているデータを有益な資産として活用し、イノベーションやデジタルトランスフォーメーションを促進して、ビジネスを成長させることができます。MDMには以下のメリットがあります。



### 収益増加

顧客体験を向上させ、販売機会を増加し、返品を削減



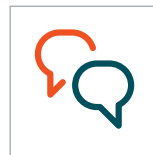
### 顧客を惹きつけるエクスペリエンス

データから抽出した知見をもとに顧客エクスペリエンスを強化し、顧客エンゲージメントを改善、業績と価値を増加



### 業務効率化

重複データやエラーを招きがちなプロセスを排除し、全チャネルで一貫したサービスを提供



### スムーズな協力体制

社内の部署間や外部のパートナーとの壁を解消し、素早い意思決定を実現



### 市場投入までの時間を短縮

新製品やサービスの市場投入までの時間を短縮し、製品ライフサイクルを効率化



### リスク軽減

正確な情報履歴により、GDPR (EU一般データ保護規則) などの法規制や規格への遵守を徹底

## ■ データサイロの終焉、そしてマスターデータ管理時代の到来

エンタープライズITは、この数十年で目覚ましい進歩を遂げました。情報活用や業務プロセスの自動化が進むにつれて、企業のアジャイル化も進み、ビジネスを強化する大きな追い風になりました。下記の図は、これまでのエンタープライズITの進化を示しています。この中に見逃した技術があったとしても、それにとらわれる必要はありません。大切なのは、次に主流となる技術なのですから…。



## 次はMDMの時代へ

データの透明性が求められるこれからの数十年にわたって、ビジネスを成功に導きます。

## ■ MDMプロバイダーは「どれも同じ」ではない



従来の画期的な技術やアプリケーションと同様に、MDMにも様々なソリューションがあります。MDMを導入する際には、顧客の成功のために、透明性と信頼性を重視するソリューションやプロバイダーを選択することが大切です。

ビジネスニーズに応じて拡張でき、商品、顧客、サプライヤー、ロケーションなどの複数のドメインを統合できるソリューションを選びましょう。また、同じような課題を抱える企業が信頼を寄せる、実績のあるプロバイダーを選択することも大切です。

### Stibo Systemsのマルチドメインマスターデータ管理

Stibo Systemsは、数十年にわたりマスターデータ管理の最前線でイノベーションを重ね、企業がデータサイロを解消し、エンタープライズデータの価値を最大化できるよう支援を行ってきました。

業界をリードする統合プラットフォームを通じて提供されるStibo Systems MDMソリューションは、企業のビジネスの進化に寄り添い、成功を収めるために不可欠なデータの透明性を実現し、デジタルトランスフォーメーションを促進します。

## ■ より良いデータ、より良いビジネス、より良い世界。

世界中の企業が、Stibo Systems MDMを通じて組織を横断するデータを集約し、サイロ化したシステムに起因する問題を解消することで、データの透明性を実現し、より良いデータを通じてより良いビジネスを推進しています。そうすることで、より良い、そしてより透明性の高い世界の実現に貢献しているのです。

マルチドメインマスターデータを活用してビジネスを加速する方法についての詳細は、[stibosystems.com/ja](https://www.stibosystems.com/ja)をご覧ください。

<sup>1</sup> Data Age 2025, sponsored by Seagate with data from IDC Global DataSphere, Nov 2018

<sup>2</sup> Demand Gen Report, "2018 Database Strategies & Contact Acquisition Survey Report"

<sup>3</sup> Smarter with Gartner, "How to Create a Business Case for Data Quality Improvement," June 2018



### Stibo Systemsについて

Stibo Systemsは信頼できるMDMを提供する、マスターデータマネジメント会社です。世界中の先進的な企業がマスターデータの戦略的価値を最大限に活用し、顧客体験の向上・イノベーションと成長の促進・デジタルトランスフォーメーションの推進を行うための基盤構築に不可欠な原動力となっています。当社は、企業が必要とする「透明性」、すなわち一元化された正確なマスターデータを提供することで、十分な情報に基づいた意思決定と、あらゆるビジネス上の目標達成をお手伝いします。Stibo Systemsは、1794年に設立されたStibo A/Sグループの非公開会社で、デンマークのオーフスに本社を置いています。詳細については <https://www.stibosystems.com/ja/> をご覧ください。